

怪我なく、元気に！

学校長 大竹 貴子

連日、学校中に運動会の歌や応援歌、太鼓の音などが響き渡り、運動会に向けて子どもたちの気持ちも一層盛り上がってきました。保護者の皆様には、体育着の洗濯や運動会で使用する物の準備等ご協力くださりましてありがとうございます。

さて、学校では毎年、学校保健委員会を代表児童や教師だけでなく、PTAの委員の皆様、校医さんにも参加していただき開催しております。これは、子どもたちが健やかに成長するために、その年に何に重点を置き気をつけて生活していくかを定める、とても大切な会議です。今年度は、「怪我」に着目することにいたしました。実は、昨年度の怪我の件数が1141件と、とても多かったからです。主なものは擦り傷や打撲ですが、首から上の怪我が297件、病院に行って治療をした怪我が22件もありました。原因は、よく注意せずに走って転んでしまったり、ふざけて遊んでいるときに友達や物にぶつかってしまったりといろいろですが、大怪我をしてしまったら大変です。

「子どもにとって小さな怪我は、元気な証拠」という言葉もありますが、「ハインリッヒの法則」を聞いたことがある方も多いと思います。これは、「重大事故の陰には29倍の軽度の事故と300のニアミス、ヒヤリ・ハットがある」というものです。



日常生活の中で「危ない！」とヒヤッとしたりハッとしたりすることがあると思います。ヒヤリハットとは、危ないことがあったけれど、幸い事故に至らなかったという事象のことです。怪我にならずに「ああよかった」とすぐに忘れがちになってしまいますが、1件の大怪我のうらには、29件の軽い怪我と300件の「怪我はしなかったけど危なかった」があると言われています。

そこで、学校保健委員会では、生活の中でどんな危険があるかを考えたり、怪我をしないためにはどんなことに気をつけたらよいかを話し合ったりします。そして、各学級で具体的に取組むことを決めていきます。

最近、地域の方々からも「駐車場で遊んでいて危ない」「道路に飛び出す子どもがいる」「塀の上ののって遊んでいて、落ちるのではないかと心配」などのお話を伺うことがあります。私も、車道をブレイブボードに乗って走っている子どもをとときき見かけることがあります。子どもたちは、「自分は怪我をしない」と思っているでしょうが、ヒヤッとしたことやハッとしたことは多いはずで、大事故になる前に、防いでいきたいと思います。そのためにも、もう一度、「いちさわっ子のきまり」や交通安全教室で教わったことをご家庭でもご確認いただき、「いつでも」「どこでも」「一人でも」できるようにお声をかけていただきたいと思います。

いよいよ運動会が迫ってまいりました。1・2年生のポンポンを使った華麗なダンスや3・4年生の息の合った「いちさわっ子ソーラン」、迫力ある5・6年生の「飛翔」、どれも見応えたっぷりです。また、応援合戦やリレー、音楽係の演奏も必見です。

保護者の皆様、地域の皆様、ぜひ温かい声援をお願いいたします。